



實りのうたこえ

野わきたつ大野の沃野は、今一面、黄金の穂波におおわれています。豊作は二年続かずのいいぐさを、ことしもみごとにくつがえすことができました。植付ごろは変調だつた気象も農業科学の進歩と粒々辛苦の汗の報いによつて、いまは豊作の表情をしめしています。

澄んだ秋空のもと、さわやかな太陽の祝福を受けて早稲刈る乙女の姿も楽しげに、打続穂波に軽やかな歌ごえすら聞こえるようです。

豊作の蔭に尽した指導者のことや、農業実演室の努力も土に生きる人々には決して忘れ得ぬことの一つでありましよう。

そしてさらに豊作によろこなく、米のみの単作農業から一歩進んで多角化農業へと踏みきる力の蓄えも忘れずに……。

(中据地籍にて)

電源 来秋には発電!

めだつ新鋭機械の登場

わが国の産業、経済、文化一こたえることになりました。交通の発達につれて電力需要一このため北陸電力株式会社では大野地方に発電所建設の計画がたてられたのですが、この誘致実現については発電所実行委員の方々の屋夜を分たぬ努力と関係地区民の深い理解と協力の賜として市は感謝しています。

上打波、富田、壁倉の三発電所の誘致は直接市の財源を潤し、越美北線の開通とともに大野市を工業都市へと飛躍させる基礎ともなります。市ではこの受け入れ対策として昨年十月に発電所誘致実行委員会を構成しこの誘致に主力を尽してきました。幸い関係市民の理解と協力によつて用地の交渉も至極円満に進み、さる四月には熊谷、山形、酒井飛島の四建設会社によつて着工、新鋭機械の総登場によつて富田、壁倉では工事が順調に進んでおります。これで明年八月には発電開始の明るい見通しもたち、昭和三十四年度から大口固定資産税として市の財源を潤すこととなります。(写真は富田発電所付近)

① 上打波発電所

所は打波川、ミノ又川、谷洞沢、失高沢、支向谷の流水を集め、総延長約九千三百三十八米の導水路と二百二十一米のサイフォンによつて上打波部落の下打波発電所取水口で発電所を建設、最大出力一萬九千九百瓦、開きよ三、



② 富田発電所は七板部落の西南方約一キロの地点に建設せられ、九頭竜川と真名川の流水を集め最大出力一萬九千二百KWが発電されます。この導水路の総延長は七千九百三十米で、九頭竜川水路・サイフォン一千七百二十五米、がい道一千七百二十五米、がい道一、千五百七十八米、開きよ三百米。真名川水路・がい道一千八十米、開きよ六百八十四米、開きよ三千五十四米、サイフォン百十五米となつて

③ 壁倉発電所は富田発電所の放水を取り入れ延長約五千二百八十米の水路で、途中九頭竜川の河底を横切つて(サイフォン)壁倉部落の西南方の断崖に建設されます。その最大出力二万五千六百KWでいづれも昭和三十三年八月に発電開始の予定です。

なお既設第一発電所は大正九年に総工費一千五百万円(当時幣価)で着工、大正十二年九月完成という四年間の歳月を費しましたが、この三発電所は一年四ヵ月という短い年月に、六十四億円の巨額を投ずる突貫工事とあつて、新鋭土木機械の登場が目立っています。

購入価格一台五千五百万円というパワーシヨベル(土砂を掘ると同時にカキあげる機械)八台、十五トン積ダンプカー三十余台、クレーン、ブルドーザーなど総価格数億円にのぼる重土木機械が屋夜兼行で活動しているありさまは、全く驚くほ



風見鶏

残暑厳しい家の中で子供たちが

高齢者を市長が慰問

九月十五日から一週間は老人福祉週間です。十五日の老人の日には各地区とも敬老会を開いて老人を敬いますが、とくにことし満九十歳になられた十名のお年寄りに市長が温い毛糸のチョッキを贈り慰問することになりました。

てみたいことがある。子供がワガママになつたのは、おとなもワガママになつたからだと言えないだろうか。戦後のおとなたちは生活的に派手になり精神的には耐久力が乏しくなつてきている。だから昔と今のおとなをくらべたら、子供の場合と同じ答えが出てきそうなのではないか。

奥地開 発林道 嵐線完成迫る

利用面積は千百余町歩



奥地開発林道嵐線は本年一月総工費一千七十七万円で延長二千七百五十七米、幅三米六十種の開発に着手、三十一年度の繰越事業としてその完成を急いでいきましたが九月中旬完成することになりました。

この林道の利用面積は一千百余町歩あり、蓄積石数は四十六万数千石という豊富さでありながら搬出困難のため、そのほとんどが朽ちるに任ざれていました。この林道の開通によって長い眼りが続いていた森林の宝庫が開かれ、産業、経済の発展に大きな役割を果たすことになりました。

やわらかい秋風が黄金色の野面をわたつてここよく肌に浸みてきます。ここ六呂師高原の一角、六呂師牧場を訪れて、牧牛の監視を終えたばかりの部落会長中村さんに案内をこえ、電気牧柵に囲まれた三十五町歩の大牧場は、さながら緑のジュウタンを敷きつめたように美しく広がり、雄大な牧野には二十数頭の和牛がユツタリと新しい牧草を求めてあちこちに群れ、高原情ちょうをただよわせています。

(写真は新設された嵐林道)

乱伐をまぬがれて、現在は用材林七百七十町歩、蓄積石数三十七万九千余石、薪炭林面積三百三十町歩この蓄積石数は八万五千余石といわれています。林道完成後は年産用材七千余石と薪炭材二千五百余石が搬出され、さらに毎年二十三町歩の造林が可能であります。

市では全面積の約七〇%が森林面積で占められているので林政には特に関心を置いて治山、治水や荒れ地の復旧、林道の新設、改良などを重点施策の一に数えています。これは市民の福祉のみでなく九頭竜川水系の上流にある大野市が当然果すべき責務でもあります。



高原の秋

この牧場は地元民の長い夢でしたが昭和三十一年四月、ついにその夢が結ばれました。これは市や県、国の補助と地元民の負担金とによつて総額七十万円で着工され、熱心な地元民の努力で同年十二月に完成しました。

わが国の漁獲高は近年減収の一途をたどり動物性タン白源を勢い畜産物に依存せざるを得ない状態にあるから、この草資源の開発は各方面から大きく期待されています。このように忘れられがちな草資源からも大野市の建設が進められているわけです。

基本選挙人名簿は毎年九月十五日現在でつくることになつてい

基本選挙人名簿 にあなたの名は

9月15日現在でつくる

1 昭和三十三年九月十五日現在、三ヶ月以上市内に住所を有する日本人(すなわち昭和三十三年六月十六日以前より市内に住んでいる者)

2 昭和三十三年九月二十日現在で満二十歳以上の日本人(すなわち昭和三十三年九月二十一日以前に生れた者)

①7 グラフを眺めて

市の酪農はまだ日は浅いのですがその後の生産は順調なコースをたどつています。昭和二十九年八月に大野市酪農組合ができたころは四十二名の会員が四十三頭の乳牛を飼養していました。これらの人たちは熱心な指導者とともに

日産二石五斗

将来は乳牛四百頭に

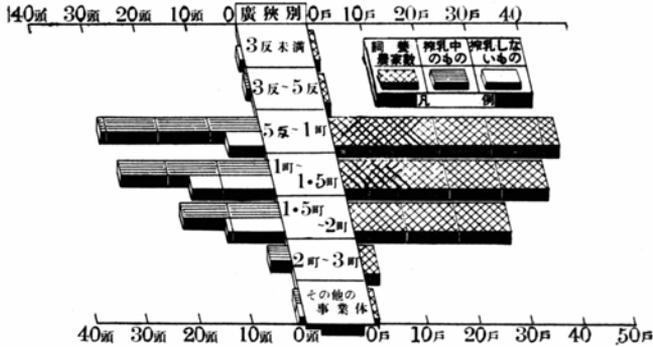
酪農

大野酪農の開拓者となり、不屈の精神とたゆまぬ努力で伸展を続け、翌年四月には下庄出張所に集乳所を建て、生乳処理などの悩みも解決して会員も一躍八十名になり、乳牛は八十六頭に増えました。

いま、これらの人たちが歩ん

だ姿はこのグラフのうちに生きていくわけだ飼育管理や自給飼料の確保など実に涙ぐましいものがありました。現在、飼養農家は百十七戸乳牛の飼養数百二十八頭、そのうちめす百十九頭、搾乳中のものは三十五頭で、毎日集乳所には二石五斗の生乳が集ります。一時は一日三石五斗の生産を示しましたが、昨年種付率のあがらなかつた関係から搾乳率が低下しているものでこれについては今後も研究の必要があり

躍進を続ける酪農生産



失業者に朗報 このほど大安定所へ、県内外から相当数の求人申込がきていますから、職を求めておられる方々は即刻同所で御相談ください。

ます。来年は市長の選挙を始める。この選挙が予想されています。この選挙人名簿は来年の十二月十九日までに行われるので、選挙の基本になるものから、選挙期日のまぎわになつて名簿についでいないことを知り、さわがれてもいたしかたがないので、あなた一票を無にしないよう、お手数でも定められたことを必ず励行されるように注意してください。

資格者調査については、従来どおり市内の全世帯から「基本選挙人名簿登録資格者調査書」を、記入の上だしていただくことになつていきます。近く各区長さんを通じてこの調査書を配布しますから、あてはまることを記入して九月二十日までに区長さんへだしてください。

●選挙人名簿にのる資格者は次のとおりです。

国保、九月一日より再開

大野地域

大野地域国民保険は昭和二十七年九月いらい休止となつていましたが、合併当時の申し合せでもあり心ある市民の理解と協力のもとに、いよいよ九月一日から再開されることになりました。

国民健康保険は疾病、負傷、死亡、分娩などに対して給付を行い、小企業者の生活安定と労働力の回復を図り、日常生活の不安をなくする制度で、わが国でもいま盛んに国民皆保険運動を起しています。

大野地域では、前回の失敗もあるのですが、昨年七月から再開の機が熟し数十回の再開啓発座談会を繰り返し、さらに十二月には大野地域国民健康保険再開促進委員会が結成され側面的な協力を得て、遂に九月一日再開の決定を見るに至つたものであります。これで全市民が明るい生活を築きむことができるようになります。

暑さも忘れて受講

婦人農業技術講習会

八月六・八日の三日間、市役所下庄出張所において県と市の共催で、新しいむら返りの指定を受けている地区の婦人を集めて婦人農業技術講習会を行いました。

市内の農家数は四千百十五世帯



(熱心に受講する婦人たち)

で、このうち農業に従事する男は四千八百七十八人、女が六千二百三人であります。このように婦人は家庭生活を受けもつとはいへ、家族主体の農業経営で



林業

秋植えに備えて 一生一度の植林に良い苗木を選びましょう。

▽良い苗木とは…… (写真右)

- 1 樹勢旺盛で大きさが苗齢に釣りあつてゐること

は労働の大半が婦人の手によつて営まれていますので、新しい農業技術を婦人に指導することは極めて大切なことであります。この講習会には多数の参加があり身もろくなるような暑さもあるものの、熱心にノートをする婦人が多いことに関係者一同大いに感心していました。

2 樹種固有の色沢を持ち、病害や傷のないこと。

3 幹はまっすぐで太く、かたく徒長していないこと。

4 頂芽は完全で、枝葉は下からよく繁つてゐること。

5 根張りよく主根はまっすぐで短かく細根の多いこと。

▽わるい苗木とは…… (写真左)

- 1 樹勢悪く大きさが苗齢にふさわしくないもの。
- 2 色沢が不自然で病害や傷のあるもの。
- 3 幹が細くて、曲つたり徒長しているもの。
- 4 頂芽や枝葉に欠点のあるもの
- 5 根張り悪く主根は長く曲り細根が少いもの。



声

夏の夜の火花は鍵屋・玉屋の昔から民衆に与えられた夏の風物詩でありましたが、その後さたやみになつてゐるのは残念です。

遠くは東京両国、近くは小舟渡と、毎年盛大に行われて、小舟渡へは当市からも多くの人が

見に行きます。私はそのたびに大野で火花があればと思う一人です。

市街地の東には真名河原があり、ここを会場にでもするならば、近く完成する列車を利用しての観覧客も集るでしょう。他の観光事業とマッチしてやるならば必ず名物になると思ひます。遠くまで金をつかひにいくのと、遠くの人を集めて金をおとさす事を比べれば、もつと早く着想してもよいはずではないでしょうか。

商工会議所あたりが主になつて交通業者や商店会とタイアップしたなら、きつと立派な行事になると思ひます。

(旭町 高木辰之助)

むらの守りは主婦の手で 上打波部落婦人消防団



(24)

カンコ踊りで名高い上打波部落は戸数が百二十戸もあり、この部落の中心にあたる桜久保には農協事務所や駐在所、学校、診療所、商店など立並び活気のあるむらです。

このむらは四千五百町歩の山林をもち豊かな林業資源にめぐまれています。戦時中は非常伐採で用材を積出すトラックの絶えまがなかつたのですが、終戦とともに静かな山里にかえりま

しかし経済の復興とともにバ

ルブ材の需用がふえて、多くの林業会社がいりこみ毎日百石あまりの用材が搬出され、行きかう自動車が一日四十台もあるという盛況、また上打波発電所建設の本格着工を前に深い山ひだに囲まれた部落は、いま林業と開発ブームに活況を見せています。

部落の男たちはほとんど伐木や運材に出ており、また雪どけをまつて出作り(春から秋まで部落を離れた山畑に家を作り住

む)にでるのがこの習慣で、夏の間はほとんど子供、老人、婦人たちがむらが守られていま

昭和二十四年五月の乾ききつたある日の午後、子供の火遊びから起つた火魔が突如、桜久保の十九むねを一なめに焼き、六十余町歩の美林を焼きつくしてしまつた

昭和三十一年十二月に、これらの工事が完成して消火栓を初めて使つて放水をした時には、部落民は小踊りして喜び、このむらの長い安泰を祈りました。こうした事が口火となつて、留守を守る婦人たちが岡消防分団長から消防操法の手ほどきをうけ、ことしの二月には婦人会長の山崎重子さんを団長におし婦人消防団が生まれました。

想い出は いまも部落民の脳裡に、新しい恐怖をよみがえらせています。それか



この消防団は月一回の定例日

を設け、放水試験を兼ねてゆるみがちな防火心と部落の守りを一層たかめています。

(婦人ながらも勇ましい放水試験)



10

療養費の支給はどんな場合にされるか

（答）保険でみてもらおうのは市と診療協定を結んだ医者または病院（療養担当者という）で、受診証をもつていつてみてもらおう（現物給付という）のが原則です。しかし、それができない次のような場合は、普通に医者にみてもらおうかわりに療養費の支給（現金給付という）をします。

一、被保険者が旅行先または出

張先で病気がけがをした場合
二、出稼先で大けがをしたとかあるいは急病のため療養担当者のところへ行く余裕がなく、近くの療養担当者以外の医者で診療をうけた場合

三、療養担当者のうちに専門医がなくて、療養担当者以外の専門医に診療をうけた場合
四、療養担当者の証明により、医療の補助手段として、はりきゆう、マッサージおよび市外の整骨師について施術をうけた場合

（答）療養費は事後支給です。被保険者が前記の場合に診療をうけたときは、その費用の金額をその医者（病院）の窓口で支

八月二日、市文化財保護委員会関係者、その外の方々十五、六名と打波方面へ文化財の調査に行きました。



まず下打波の小白山神社に参りますと境内に神木の大カツラが真夏の空をついていかめしく立っています。石徹白の大杉、友兼の大ケヤキにくらべて決して見おとりはしません。

このカツラの木の本幹は昔に折れましたが、周辺から出てくる幹は十三本あり、ホウキをさかさまに立てたように空に広がっています。目通り（大人の目の高さ）のまわりが四十六尺、高

払い、市で定めた様式の受取証を証拠書類として療養費支給申請書にそえて、市役所または出張所へ提出します。この支給額は普通に保険で診るときの数

〔郷土いろはかるた〕

中竜鉦山、鉛と亜鉛



和泉村の中竜鉦山は、戦時中は数千人の労務者をもつて奥越に鉦山都市を出現した。戦後一時休山したが、昭和廿六年夏から本格的に再開し、閃亜鉛鉱、方鉛鉱を主として採掘している。近年、従業者の福祉施設はとみに向上し、日産四五〇トン、日進歩の鉦山王国。

で換算した金額の約半分額であります。病んで泣くより笑って国保



▽種モミの確保 農作は種子を準備することから始まるといいますが、九月から来年の稲作が始まるといつてもよいでしょう。いまのうち

に採種圃をみておいて、自家採種の場合もよい種を選んで、よい種粒を用意するようにしましょう。年々歳々同じ種子を繰返して作っていると、それだけでも一割程度の減収になります。

▽産米の改良 経済の落ちつきとともに北陸の軟質米は市場で買いたたかれるようになってきますから、今のうちに声価を上げて置く必要があります。ハサ

干は八日でおろすのが一番合理的であり、それ以上掛けてお

てありますので、これが正しい社名でないかと思えます。▽この池はカツラのすぐ下にある罫り四間ほどの池です。いまも残っています。

▽片壁記は福井藩の歴史を紀年体にしたものです。▽漁業権は九頭竜川魚止地域のマス、アユを獲ることについて

下打波と仏原の両村が常に争つたもので、これを一年交替で獲ることに定めたものであります（大カツラの樹）

小白山神社の大カツラ

幹の周りは約14メートル

下打波

その真偽は別として樹齢は七八百年と思われま。たしかに天然記念物としての価値があり、保存すべきものだと思います。同社の神体についても伝説があります。今一つ見のがせないことは、下打波・勝矢文右衛門氏宅に天

くつかの燈ろうなどが倒れたままですが、この燈ろうはいずれも徳川初期、中期のもので、そのなかに次郎四郎などの寄進したものがあります。この人はその当時、相当有力者であつたと見え元文元年（百



ても特に乾くとはいえないので後はむしろ干を二三日します。▽夏まきカンランの定植 上旬に定植します。水田裏作の場合、はできるだけ早く田を乾かし、砕土して土壌通気をよくします。施肥は元肥を重点とし特に水田裏作ではたい肥も金肥も三割増しくらいにします。

▽白菜大根などの管理 先月へ種した白菜や大根は、間引や追肥がおくれぬようにし、練床栽培の白菜は特に定植をおくらさぬことが肝要。サルハムシ、キスジノミムシなどはDDT乳剤などで駆除しますが、白菜はBHC剤に弱いから使わないこと。アブラムシはヒトンあるいはTEPPなどで駆除しますが一回散布で全滅させることはむずかしいです。白斑病や腐敗病の常発するところでは月末から来月に入つて銅水銀剤を三回程度散布します。白菜は銅剤にも弱いので薄い（一斗に八匁溶解）ものを使います。

▽麦種子の消毒 近年、黒穂病をかなり見かけますが、風呂湯浸法を行えば、必ず防げますから天気のようにちに消毒して藤干にしておきます。斑葉病、赤カビ病、雲紋病などは更にへ種直前、ウスブルン消毒することによつて防げます。

▽めん羊、やぎの種付 九月末から種付期に向いますから良質飼料を補給して正常な発情がおこるように努めます。